
異常《アブノーマル》と過負荷《マイナス》をあわせもつもの

刻燐 幸次

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アフノーマル マイナス
異常と過負荷をあわせもつもの

【Nコード】

N6703Y

【作者名】

刻燐 幸次

【あらすじ】

あるとき神様のミスで殺された大神雄也は、神様にオリジナルのアフノーマル マイナス異常と過負荷、そして能力を1つ作る能力を受け取った、さて大神雄也はいつたいたいどんな生活を送るのだろうか

第0箱 プロローグ

どーも大神雄也です、今僕はなんと、なんと
白い世界にいます

《これは、よくあると言う転生パターンか》

「あ、また人殺したんだ私…」

《え！大丈夫ですよ僕は、どうせあの世界にいても楽しくなんてな
かったしむしろ死にたかったところを殺していただいてありがとうございます
《ございます》

「そんなの言ったのあなたが初めてです…私神のシユリアといいま
す」

《僕は「知っています大神裕也さん」…本当に神様なんですな》

「はい、それで実は今回の件、あなたが死んでの私のミスなんです」

《は？……はあああああ！？あなたのミス！？どんな！？》

「あ、はい、実は…あなたが助けた女の子、実は今日死ぬことが運
命として決まっていたのです…そして」

そのあとも小一時間位話を聞いた
なるほど

《分かった、しかし俺が助けたことにより運命が変わり、死ぬ人が

いなくなつたから、俺がそこにいたし、弱っていたから代わりに俺が殺されたと《》

頼む違つてくれ、違つてくれたら飴ちゃんあげるから

「残念ですがそうです…」

マジかorz

「なので貴方に転生の話を持ちかけたのです」

《えーっと、まずどこに転生すればいいんですか？》

「はいめだかボックスのせk《めだかボックス！！》はい！」

《じゃあ能力くれますか？何かと普通じゃ生き残れるかわからないんで》

「もちろん最初っから渡すつもりです、まず神オリジナルアフノーマル異常の『スペースリセクション空間切除』です」

《空間切除？》

「はい、空間を切り裂きそこに新たな空間を作り出す異常性アフノーマル相手の足元を切り裂き、空間を消すことによつて地面の材質を変えたり、自分の下を切り裂くことによつてテレポートのように応用することが可能、1日8回まで使える 能力です」

《なるほどそれで？》

「次に完璧主義者これもオリジナルです、黒神めだかの異常性の
完成』と似ていますが200%の完成度を誇ります」

ほぼチートじゃねえか

《次は？》

「次は過負荷『マイナス自凶感』マイナシツク自分と同じ力にすることができるといふより同じなんだけどね」

《もうないか？》

「あとは君がスキルをあつちで一つ考えな、異常でも過負荷でもいい、君だけの能力を、それじゃあ、『行ってらっしゃい』」

《言うてくるぜ、じゃあな神様！！》

「どうかあの異過者に幸せが訪れますように」

そう神様がつばやいた後僕は雲から降りた

キャラクター設定

大神雄也

性別 男 所属クラス 1年13組

この小説の主人公

転生前に女の子が引かれそうなところを助けて代わりに死んだ

転生後は、めだかボツクスの世界の箱庭学園の1年13組に入った

アブノーマル マイナス

異常と過負荷をあわせもった特殊な存在

アブノーマル スペースリセクション

異常性 『空間切除』と 『完璧主義者』

マイナシツク

過負荷は 『自凶感』

そしてスキルを一つだけ作れる神の能力を貰った。

アクセラレータ

容姿は一方通行の様な感じに制服を着せた姿

アブノーマル

異常

・ 『スペースリセクション空間切除』

空間を切り裂きそこに新たな空間を作り出す異常性アブノーマル

相手の足元を切り裂き、空間を消すことによって地面の材質を変えたり、自分の下を切り裂くことによってレポートのように応用することが可能、1日8回まで使える

・ 完璧主義者オブ・コンプリータ

黒神めだかの異常 『完成』と似ているアブノーマルジ・エンド

相手の才能や異常、過負荷を200%まで使いこなすことができるスキル アブノーマル マイナス

過負荷^{マイナス}

・ 『^{マイナスチック}自凶感』

球磨川楔の過負荷^{マイナス}の『却本作り（ブックメーカー）』をもとに神様が考えた過負荷^{マイナス}

刺すものはペンで、先が尖っていて『カチツ』って音が鳴る部分がマイナスの螺子のように窪んでいる

第1箱 僕は親に捨てられました

僕が雲を降りてこの世界にやってきて2年がたちました
え？なんで話が飛んだかつて？そりゃ赤ん坊だからやることなんて
毎日一緒そんなくならん生活もうとばしてもいいだろう？

まあメタ発言はこれくらいにして、神様に言われた能力完成したよ
その名も『ノンフィクション超正直』球磨川先輩に対抗するために作ったアブノーマル異常さまあ
簡単に言つと虚構ないことを現実（作り出す）アブノーマル能力、これで応用がきけば現
実に現実を上書きしたりもできるしまあほぼチートさ
まあそんなことより今の名前は大神雄也じゃなく河野雄也になつて
いる

まあそんなわけで現状の発表と行くね僕は…

「捨てられたんだ…」

そう親に捨てられた、僕のアブノーマル異常性を知り迫害し捨てたんだこの病院に
そう考えていた僕の前に人がやってきた

「君、お父さんやお母さんはどこ？」

「といれにいくつていつてましたけど、かえつてきません」

「そうなんだ、ボウやどうしてここに立ってるの？」

「…この病院で診察を受けろつて言われたんだ」

「そうなの、でも親がいないとお金払えないわね…よし！！あなた
を私の子供にするわ！！」

.....は!?

「いいの?」

「うん、私は大神陽子よろしくね、えーっ」と

「このゆいちゃん...?」

「よろしく、雄也」

「うん!」

『河野雄也さんどうぞ』

呼ばれたね、まあ家族ができてよかったあの人なら僕の異常性を認めなくて受け入れてくれるかな?

「言ってきていいよねママ」

「ええ(絶対この子を捨てた親を許せない...この子は何があっても私が大事に育てるわ)」

「行ってきます」

「ただいまママ、やっぱり僕は異常だった」

「そう、でも大丈夫私はあなたが異常でも過負荷でもいいの」

「ありがとう…ママ」

僕はこの時すごくうれしかった、どうしても聞かれたら初めて僕の
アブノーマル マイナス
異常と過負荷を受け入れてくれたもの、と答える
そしてこの日からすぐ時は流れた…

第2箱 時は過ぎ箱庭へ

箱庭学園

1学年に付き1組から13組まであるマンモス校。

1 - 4組は普通科、5・7・9組は体育科、6・8組は芸術科。それより上のクラスは全員が特待生となっており、10組は特別普通科、11組は特別体育科、12組は特別芸術科、さらに上には全国から集められた異常者^{アブノーマル}で構成された13組がある学園。

俺こと『大神雄也』は1年13組だ…今思うと善吉たちとあまりは一緒のクラスじゃないので残念だ

さて俺はあの日から今までにいろんな人と会った病院ではめだかちゃんこと黒神めだか、そして善吉こと人吉善吉、また中学では球磨川楔と阿久根高貴という原作キャラだ、まあめだかちゃんや善吉君は中学も一緒だったから幼馴染み的なもんだな。まあとにかく、俺は13組で頑張ります

「さてこれから一ヶ月何も無い…訳ないか」

まあとにかくクラスに移動しよう…え？どうやってクラスが決まったかだつて？簡単さ理事長のそこ行ってサイコロ転がして同じ目が積み重なっただけだよ

「さてそうこうしてる間についたか、おっ邪魔しま〜〜す」

そういつてドンツという音を立ててはいると黒神めだかが一人いた

「ん？どつかであった気がしてきちゃった…悪いけど僕帰るねじや！」「《ガシッ》まあそうつれないことを言うな雄也よ」「あのお、離

していただけませんか？」「よかるっ《パっ》」「うおっ！…！？？」

ガスッ

そっという音を立て床に倒れた僕

「痛いよ黒神さん」

「そんなよそよそしい呼び方をするな幼稚園や中学と同じようにめだかちゃんと呼ぶがよい」

「分かったよ、で、めだかちゃん、13組は先生こないの？」

「前を見たらわかるぞ」

「ん？何々『永久自習…』 永久自習！？」

「ああ、永久に自習だそうだ」

「マジか、じゃあ俺は…よっと、本でも読むか」

そういつてカバンからジャンプを取り出す、これは今日の行きに買ったものだ

「む、漫画を買うとは感心せんな」

「いいじゃねえかよ、めだかちゃん、あまりカリカリしてるとやばいことになるぞ」

「まあよい、それと今から選挙に立候補するから、善吉を読んで一階の事務室前に来い」

「へーい！《シュンツ》？走り去る音《》」

そして俺は善吉のいる1年13組に向かった

「善吉ちゃーん！こっちコイヤコラ！ー！！」

「カツ、うつせえな雄也！お前どうなて」めだかちゃんからの命令です「行くぞ」

「最初っからそう言っていればいいのに」

まったく素直じゃないな

「うるせえ」

「早くいくぞ」

「分かってるぜ」

そういったあとおれは外に出た

すると

『ねえ、あの子、十三組アライマールの子よね』

『そうだよ、でもあんまり怖そうじゃなかったよね』

『うん、むしろかつこよかった』

『まあちよつとは13組の子も見直そうか』

なんかいい方向に進んだ、そう思った俺であった

「連れてきたぜめだかちゃん」

「そうか、では早速選挙の出馬に先駆けて立候補するでしょう」

「そうかい、なら俺は帰るな、」
「まあ待て雄也よ」
「…なんでしようか？」

「雄也、お前も行くんだよ」

「クソオ、善吉め…」

そして俺は連れて行かれた襟首をもって引きずられて首が絞まりながら

第2箱 時は過ぎ箱庭へ（後書き）

もつすべてが原作開始前の僕の勝手に考えたストーリーです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6703y/>

異常《アブノーマル》と過負荷《マイナス》をあわせもつもの

2011年12月11日11時50分発行